

第四十八期卒業生の皆さん。ご卒業、誠におめでとうございます。今、皆さんが手にしている卒業証書には、春江中学校で過ごした三年間の様々な思い出が込められていることでしょう。

思い返せば、三年前の入学式。真新しい制服を着た皆さんに、式辞の中で「はるえアクション・スローガン」を披露しました。

【は】 発見・気付き

【る】 ルートを考え、つながる

【え】 笑顔を創り出す

をキーワードに、皆さんは、自分と向き合い、トライ＆エラーを繰り返しながら、多くのことにポジティブに挑戦し、課題を乗り越え、豊かな経験を積んできました。

この三年間、後輩にも受け継がれている気持ちの良い挨拶、**POINT**を文房具として自然に活用した話し合い活動や発表、福島移動教室や修学旅行など校外学習での探究活動、運動会や久遠祭で仲間と心を一つにして取り組んだ学校行事、部活動での活躍、生徒会活動や地域でのボランティア、そして「なりたい自分」について真剣に語ってくれた校長面接。こうした姿から、皆さんが確かに成長してきたことを実感しています。

本日、皆さんは、「心のふるさと」である春江中学校を卒業し、それぞれ「なりたい自分」を目指し新たな場所へと立ちます。

自ら選んだ進路先で、個性を発揮し活躍することを、大いに期待しています。

皆さんには卒業しても「はるえアクション・スローガン」を胸に抱き、**自分の人生の舵取りをし、未来を主体的に生き抜いて**いってほしいと願っています。

それでは、未来を主体的に生き抜くために必要なことをこれから二つ話します。

まず、「**問い**」をもつことです。

世界は今、生成AIの急速な広がりによる仕事の変化、競争や経済など不安定な社会情勢など、**予測のつかない時代**へと変わりつつあります。学校では、これまで**答えがある「問い」**を多く学んできましたが、未来の「問い」については「**正解**」がありません。

また、これまで受け継がれてきた伝統や文化はありますが、無意識の思い込み（**アンコンシャス・バイアス**）も、社会には、まだ多く存在しています。

「本当にそうなのか？」

「どういうことなのか？」

「自分にとって大切か？」

「自分はどうありたいのか？」と、

常に「問い」を立て深く考える習慣を身に付けてください。考える際に重要なのが、「虫の目・鳥の目・魚の目」の三つの視点です。

「虫の目」のように複眼で細かく注意深く見ることで、

「鳥の目」のように対象から離れて広い視野で見ること、

「魚の目」のように水の流れがどう変化しているか潮流を敏感に感じることで。

三つの目で多角的に物事を見て、確かな情報を精査し、自問自答を繰り返し、行動することが、生きていくうえで重要になります。「問い」をたて、繰り返すことで「自分の軸」が確立していくはずで。

深く考えながら、自分の人生の舵取りをしてください。

次に、「人生のペダルを踏み続けること」です。

私の趣味であるサイクリングにちなみ、アルバート・アインシュタインの言葉を贈ります。

*Life is like riding a bicycle.*

*To keep your balance,*

*you must keep moving.*

人生は自転車に似ている。

バランスを保つには、動き続けなければならない。

どんなに小さな前進でも構いません。ペダルをこぎ続けければ慣性が働き、必ず前に進めます。人生には試練もあります。

長くつらい上り坂もあります。しかし、目標があれば乗り越えられます。

峠の先の景色を期待し、目標に向かい「頑張るときはいつも今」と奮起してください。

最終的に人生は、自らがどれだけ能動的に自分に働きかけたかで決まります。思いつくことは何でも試し、失敗を恐れずチャレンジしてってください。

あなたの勇気ある小さな行動が未来の可能性を広げることが可能です。

卒業生の皆さんが、明るい未来へ向かって、

「問い」をもち、深く考え、人生のペダルを踏み続け、二十年・三十年後の未来社会で中心となって活躍されることを大いに期待しています。

結びに、卒業生の前途ならびに春江中学校に関わるすべての皆様のご健勝とご多幸を祈念し、式辞といたします。

令和八年三月十九日

江戸川区立春江中学校長

横枕 耕史